

## 演題：喫煙は糖尿病治療者の血糖コントロールを悪化させる（第2報）

演者：各務竹康 1)、早川岳人 1)、栗田直人 2)、齋藤郁恵 2)、畑淳子 2)、福島哲仁 1)

所属：1)福島県立医科大学衛生学・予防医学講座

2)全国健康保険協会福島支部

【目的】喫煙が糖尿病治療者の血糖コントロールに与える影響を明らかにする。

【方法】全国健康保険協会福島支部加入者における、特定健診受診者の健診データとレセプトを解析した。平成 21 年度から平成 23 年度に行われた健診受診者のうち、(1)協会けんぽに 1 年間継続して加入していた 35 歳から 74 歳、(2)健診にて喫煙の有無に対する問診に回答しており、空腹時血糖若しくは HbA1c の測定を行なっている人、(3)レセプトより、健診受診年度から翌年度 9 月の間に糖尿病の病名で受診している人を解析対象とした。解析対象者は、平成 21 年度男性 12705 人、女性 4841 人、平成 22 年度男性 13172 人、女性 4830 人、平成 23 年度男性 14189 人、女性 5358 人であった。対象者の健診結果より、血糖コントロールを糖尿病治療ガイドラインより「優」(血糖値 110mg/dl 未満かつ HbA1c (JDS) 5.8%未満)「良」(血糖値 110~130mg/dl 未満または HbA1c 5.8~6.5%未満)「可」(血糖値 130~160mg/dl 未満または HbA1c 6.5~8.0%未満)「不可」(血糖値 160mg/dl 以上または HbA1c 8.0%未満)に分類した。対象者の年代を 35~44 歳、45 歳~54 歳、55 歳~64 歳、65 歳~74 歳に分類した。血糖コントロールを治療目標である「優」「良」(治療良好群)と「可」「不可」(治療不良群)の 2 群に分類し、男女各年代別に、喫煙の有無と、カイ 2 乗検定を実施し、有意水準を 5%未満とした。

【結果】対象者の喫煙率は平成 21 年度男性 41.4%、女性 13.3%、平成 22 年度男性 38.9%、女性 13.2%、平成 23 年度男性 38.8%、女性 14.1%であり、男性で喫煙率が高かった。全体の治療不良群の割合は、平成 21 年度男性 28.8%、女性 15.6%、平成 22 年度男性 28.1%、女性 16.0%、平成 23 年度男性 27.1%、女性 14.7%であった。全ての年代で男性の治療不良群が多かった。男性は平成 21 年度 35 - 44 歳、45 - 54 歳、55 - 64 歳、平成 22 年度 35 - 44 歳、45 - 54 歳、55 - 64 歳、65 歳 - 74 歳、平成 23 年度 45 - 54 歳、55 - 64 歳、65 歳 - 74 歳で、女性は平成 21 年度 45 - 54 歳、平成 22 年度 55 - 64 歳で喫煙者において有意に治療不良群が増加していた。

【考察】今回の結果より、喫煙の有無は、血糖コントロールを悪化させる可能性が示唆された。男性に比べ女性で有意差が少ないのは、女性で喫煙率が低いことに起因する可能性がある。糖尿病患者に対する禁煙指導は血糖コントロールを良好に保つためにも有効である。